



薄川土地改良区だより

2025. 12. 1

松本市薄川土地改良区から入・里山辺に住む方々への

お願い、お知らせです

冬の水路

つい先日まで暑い暑いとエアコンのお世話になっていたのに、今は炬燵が頼りです。「タイヤ履き替えたかい？」が挨拶の時期となりました。



水路の水が詰まって道路に溢れ凍ってしまい、交通の障害になることが心配です。冬期間もハウスぶどうの栽培には水路の水が欠かせません。また、冬期間も水路の水は防火用水を兼ねています。これから3月までは水が凍結する心配がありますが、農家、非農家を問わず入里山辺の地域の共通の財産として管理していきたいものです。水路にものが詰まっていたら取り除いてください。水路をいつもきれいにしよう皆で心がけましょう。12月12日には、各町会長さんと各水利委員のみなさん、土地改良区の役員さんが冬期間の水路の管理について会議を持ち、情報の共有化を図ります。

水はめぐる

水は天から降ってきます。その水は川を流れいずれは海に行ってしまいます。松本市では条例で新しく家を建てた場合、雨水枡をそれぞれの雨トヨの末端に設け地下水に戻すことが義務付けられています。薄川の水もただ本流を流すだけだと地下に浸透するのは極僅かだということです。稲作の為に各水路に水を引き、水田に水を張る。一面に張られた水は地下に浸透し（蒸発するものももちろんある）一説には40年経って松本市街地の井戸に出て来るとのことです。女鳥羽川も、田川も然りです。あの水が豊かな安曇野も、江戸時代から奈良井川の水や梓川の水を、人工の用水路を介して田や畑に引き緑豊かな土地を育み、豊かな地下水も生まれたのだと思います。

農地を守るために

今年の夏も農業用水が溢れて住宅地や道路でトラブルが起きないか心配でした。水利を管理される方々の心くばりのみならず、地域の非農家の方々の協力もあり、大きなトラブルにならずに過ごせたと皆さんに感謝しています。米価が問題になることが多い昨今ですが、我々土地改良区は農地を守ることを第一の目的としています。生物が生きていく上でまず必要なことは、食べ物があるかないかということということです。主食を外国に依存するということはとてもリスクの高いことです。また、緑豊かな環境の中で生活できることは大変幸せなことだと思います。